

# アワビ漁師渡米の背景迫る

南房総

新資料を解説 31日までパネルなど展示

「太平洋を渡った房総アワビ漁師と渡米前の資料調査&絵画展」が、南房総市岩系のギャラリーMOMOで始まった。近年見つかかった古文書の解読から、明らかにしつつあるアワビ事業の背景が、パネルや写真を通して解説されている。31日まで。

「太平洋を渡った房総アワビ漁師と渡米前の資料調査&絵画展」が、南房総市岩系のギャラリーMOMOで始まった。近年見つかかった古文書の解読から、明らかにしつつあるアワビ事業の背景が、パネルや写真を通して解説されている。31日まで。

チャレンジ事業に採択された房総アワビ移民研究所と、NPO法人安房文化遺産フォーラムの共催。

アワビ事業は、明治期に旧白浜町根本出身の小谷源之助、仲治郎兄弟がカリフォルニアに渡米し、モントレレー湾で器械式潜水のアワビ漁に成功。同郷のハリウッド俳優、早川雪洲も兄がアワビ漁に参加していたことなど、海を越えた壮大なストーリーで知られる。

平成30年、仲治郎が帰国後に住んだ旧千倉町千田の旧宅から、同団体らが古文書数百枚を発見。31年から内容の調査を開始するが、保管していた建物が令和元年房総半島台風で全壊に。その後、関係者の尽力で約500枚の書類などの復旧や解読が完了したという。

今回からは、解読から新たに分かった実家の海産物問屋「金澤屋」の事業や兄弟に施した教育、明治期の水産業などを紹介。パネル13枚と、倉田白洋、故・溝口七生氏などゆかりの画家の作品4点、写真資料、器械式潜水具のヘルメットなどが展示されている。

同NPOの粕谷智美さんは、「これまで活躍した人々に注目されていたが、渡米の背景となる漁業者らの姿が明らかに becoming する。ぜひ多くの人にご覧いただきたい」と会場を呼び掛けている。

時間は、正午から午後4時まで。火、水、木曜日は休廊。問い合わせは、ギャラリーMOMO(0470-2814621)へ。



ギャラリーに展示されているパネルなど＝南房総

パネル13